

雌阿寒岳

1 概況

5 月下旬から微小な地震のやや多い状態が続いていましたが、6 月中旬には減少し、噴煙などの表面現象にも変化はありませんでした。

2 地震活動の状況

地震回数は 5 月下旬から引き続き、1 日あたり 10 回程度とやや多い状態が続いていましたが、6 月中旬以降は減少し 1 日あたり 1～6 回で推移しました。いずれも微小な地震で震源はポンマチネシリ火口直下の浅いところと推定されます。

月別地震・微動回数（B 点）

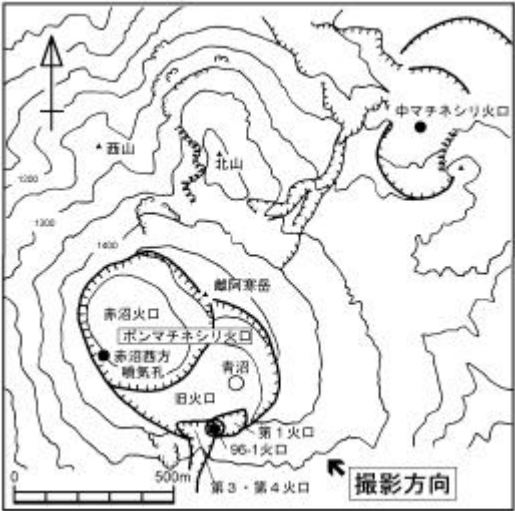
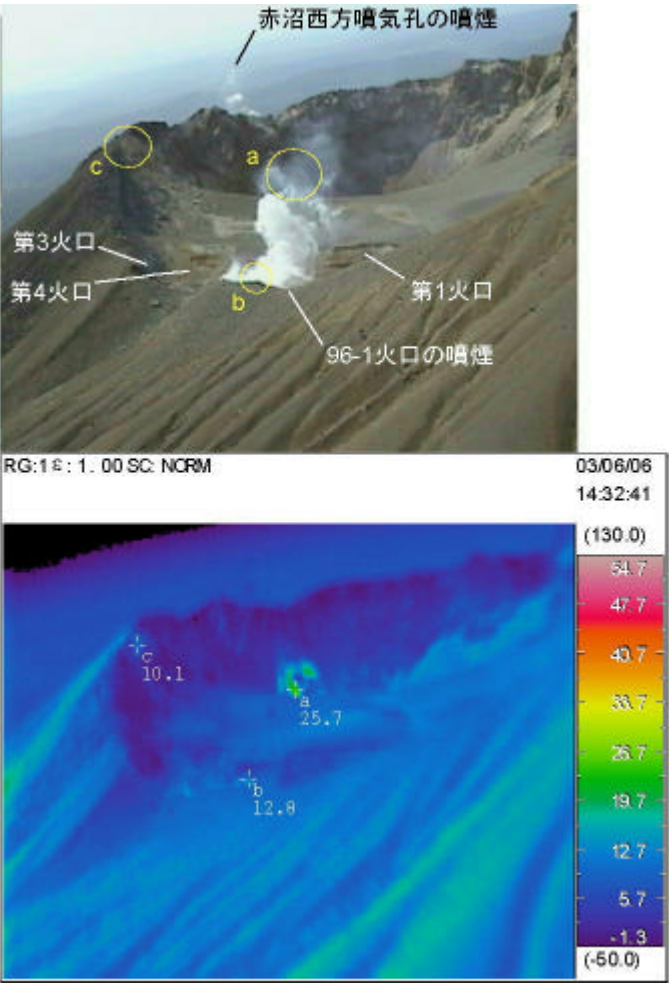
2002～2003 年	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
地震回数	32	25	34	21	20	39	204	83	223	375	163	155
微動回数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

3 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙高度は火口上 100m 程度で推移し、赤沼西方噴気孔、中マチネシリ火口についても特別な変化はありませんでした。

4 上空からの観測結果

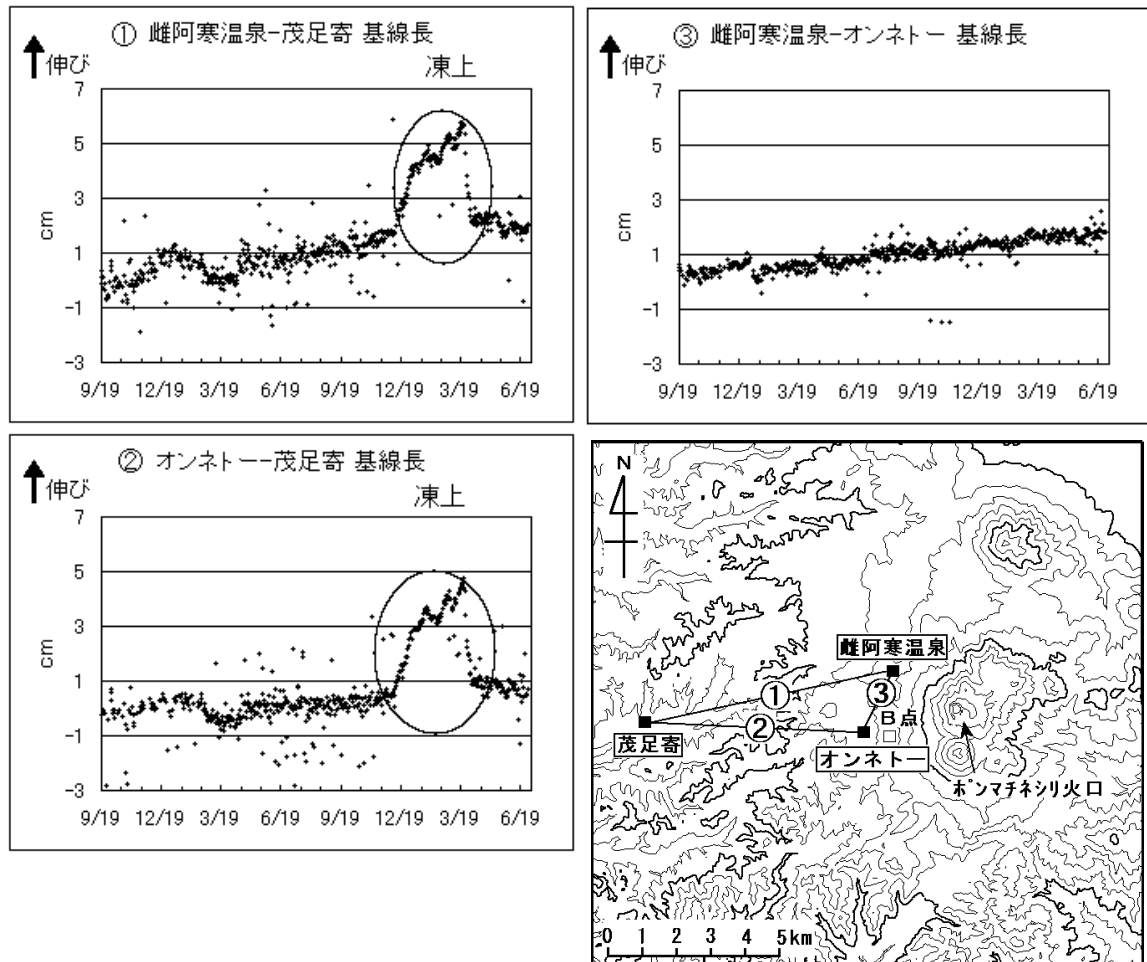
6 月 6 日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ 96-1 火口などの噴煙の状況に変わった様子は見られませんでした。また、赤外熱映像観測でも地熱域の拡大や活発化などの変化は認められませんでした。



南東側上空から見たポンマチネシリ火口の赤外熱映像
（2003 年 6 月 6 日 14 時 32 分、天気薄曇：北海道開発局のヘリコプターから撮影）
熱映像では 96-1 火口の噴煙は表現されず、赤沼西方噴気孔周辺の地熱域（a）が緑色の領域で表現されています。

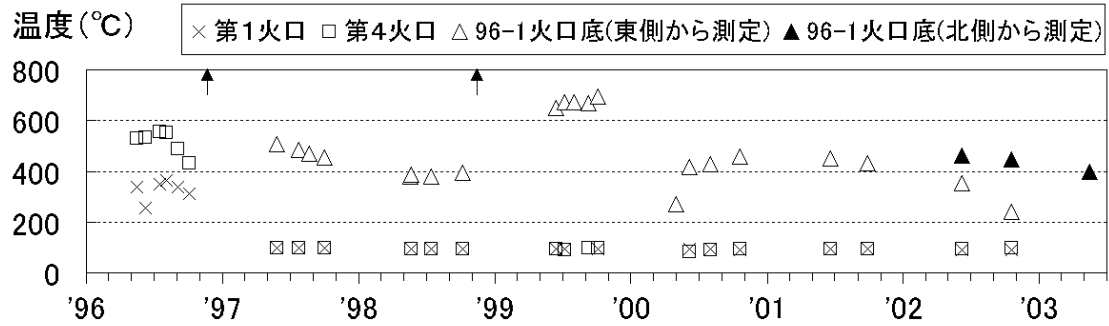
5 地殻変動の状況

G P S 観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません（図中○で示した変化は、茂足寄観測点の凍上と推定）。



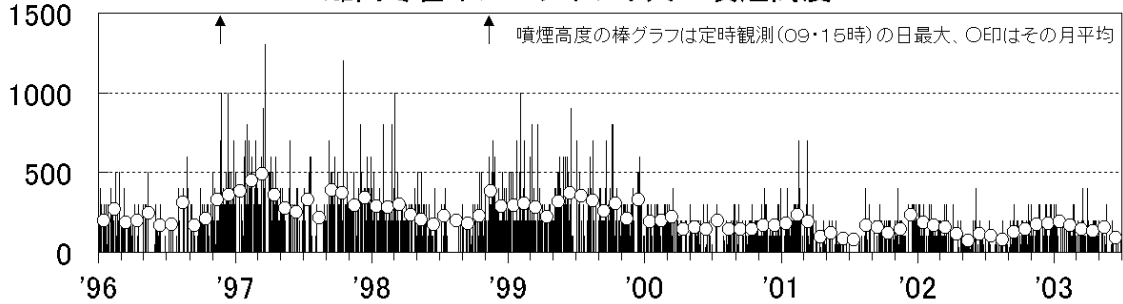
雌阿寒岳基線長変化（2001 年 9 月 19 日～2003 年 6 月 30 日）

雌阿寒岳ポンマチネシリ火口温度



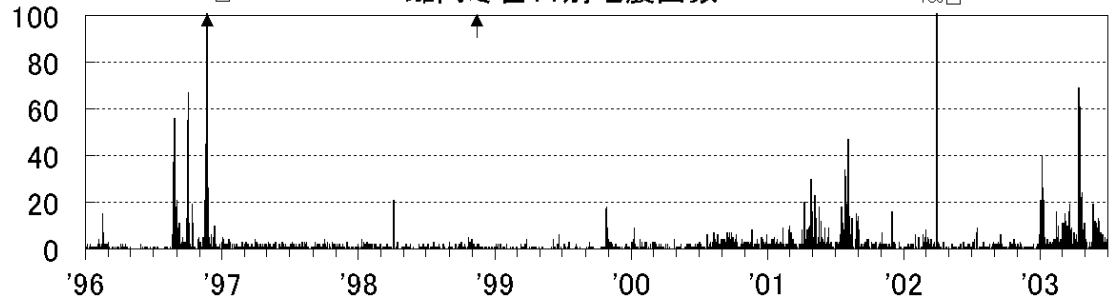
噴煙高度(m)

雌阿寒岳ポンマチネシリ火口噴煙高度



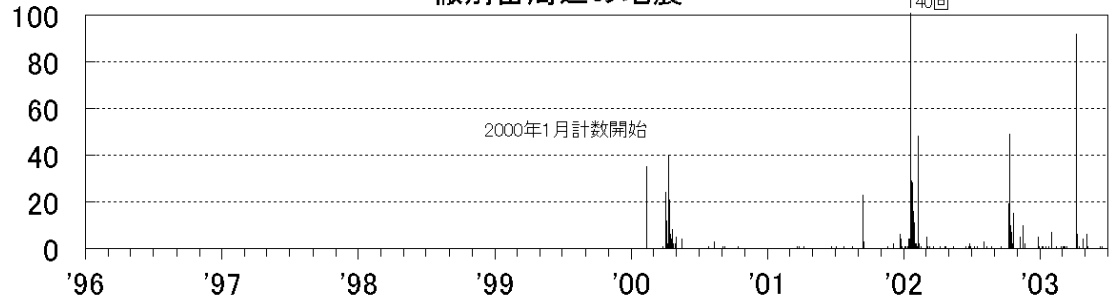
日別回数

雌阿寒岳日別地震回数



日別回数

徹別岳周辺の地震



雌阿寒岳火山活動経過図（日別、1996年1月1日～2003年6月30日）↑印は噴火